

## GUEST1000\_4

4201: アクィリウスは料理人<sup>りょうりにん</sup>で、上手<sup>じょうず</sup>に肉<sup>にく</sup>を捌<sup>さば</sup>きます。

4202: エスワティは質問<sup>しつもん</sup>に答<sup>こた</sup>えるとき、いつも結<sup>けつ</sup>論<sup>ろん</sup>から話<sup>はな</sup>します。

4203: 冷蔵庫<sup>れいぞうこ</sup>を<sup>か</sup>買うためには、麓<sup>ふもと</sup>の町<sup>まち</sup>まで出<sup>で</sup>かけないといけません。

4204: ヴィヴァルディの四季<sup>し き</sup>は、長年<sup>ながねん</sup>愛<sup>あい</sup>聴<sup>ちよう</sup>されて<sup>きよく</sup>いる曲<sup>きよく</sup>です。

4205: リニューアルのため、ジェットコースターは仮<sup>かり</sup>囲<sup>がこ</sup>いされています。

4206: ヴォルピヤーノは、エベレストで雲海<sup>うんかい</sup>の写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>を撮<sup>と</sup>りました。

4207: クエードは、哀<sup>あわ</sup>れむような眼<sup>まなざ</sup>差<sup>さ</sup>しで彼<sup>かの</sup>女<sup>じょ</sup>を見<sup>み</sup>つめました。

4208: セリヌンティウスは、メロスの我<sup>わが</sup>儘<sup>まま</sup>に構<sup>かま</sup>うのに忙<sup>いそが</sup>しそうです。

4209: それではみなさん、胡<sup>きゅう</sup>瓜<sup>り</sup>を<sup>きゅうり</sup>テーマにした俳句<sup>はいく</sup>は出来<sup>でき</sup>ましたか？

4210: バリヤドリードは、痔<sup>じ</sup>にもかかわらず、便座<sup>べんざ</sup>で読<sup>どく</sup>書<sup>しょ</sup>します。

4211: プレヴァリエは、スロベニアの北<sup>きた</sup>方<sup>かた</sup>、コロシュカ地方<sup>ちほう</sup>の都<sup>とし</sup>市<sup>し</sup>です。

4212: ブリュッセル、そろそろ錆<sup>さ</sup>びついた剃<sup>かみ</sup>刀<sup>そり</sup>の刃<sup>は</sup>を入<sup>い</sup>れ替<sup>か</sup>えませんか？

4213: セグメンテーションフォルトのため、プログラムは実<sup>じつ</sup>行<sup>こう</sup>されません。

4214: アドログエは、ドイツで最<sup>もっと</sup>も高<sup>こう</sup>額<sup>がく</sup>な宝<sup>たから</sup>くじに当<sup>とう</sup>選<sup>せん</sup>した。

4215: 今日<sup>きょう</sup>はスーパ<sup>とく</sup>ーの特<sup>とく</sup>売<sup>ばい</sup>日<sup>び</sup>なので、プリンが安<sup>やす</sup>いです。

4216: 解<sup>かい</sup>答<sup>とう</sup>フ<sup>う</sup>ォ<sup>お</sup>ームには、数<sup>すう</sup>字<sup>じ</sup>を入<sup>に</sup>力<sup>りよく</sup>してください。

4217: お礼<sup>れい</sup>をされたヴィーチャズィは、深<sup>ふか</sup>々<sup>ぶか</sup>とお辞<sup>じ</sup>儀<sup>ぎ</sup>をしました。

4218: ミヨーリー、富<sup>ふ</sup>岳<sup>がく</sup>の計<sup>けい</sup>算<sup>さん</sup>力<sup>りよく</sup>を、調<sup>しら</sup>べてもらえませんか？

4219: カステラは長<sup>なが</sup>崎<sup>さき</sup>名<sup>め</sup>物<sup>ぶつ</sup>で、ポルトガルから伝<sup>つた</sup>わりました。

4220: 絶<sup>ぜ</sup>対<sup>たい</sup>値<sup>いち</sup>の記<sup>き</sup>号<sup>ごう</sup>は、二<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>の直<sup>ちよく</sup>線<sup>せん</sup>で表<sup>あらわ</sup>します。

4221: ショーンはエノク語を話<sup>ご はな</sup>しますが、天使<sup>てんし</sup>と会話<sup>かいわ</sup>したことはありません。

4222: 春<sup>はる</sup>になるとピエプシュは、晴天<sup>せいてん</sup>の下<sup>した</sup>でお昼寝<sup>ひるね</sup>をします。

4223: ビエンは缶蹴<sup>かんけ</sup>りの鬼<sup>おに</sup>になったので、一<sup>いち</sup>から十<sup>とお</sup>まで数<sup>かぞ</sup>えました。

4224: クウアレーロは、クレジットカードの分<sup>ぶん</sup>割<sup>かつ</sup>払<sup>ばら</sup>いを好<sup>この</sup>みます。

4225: チーフ、可能<sup>かのう</sup>であれば、ジュールを雇<sup>こよう</sup>用<sup>よう</sup>していただけませんか？

4226: デュランダルは、税金<sup>ぜいきん</sup>の取<sup>と</sup>り立<sup>た</sup>てが厳<sup>きび</sup>しいこと<sup>ゆうめい</sup>で有名<sup>有名</sup>です。

4227: グィネヴィアは符号<sup>ふごう</sup>ミス<sup>ミス</sup>のせい<sup>ひゃくてん</sup>で、百<sup>ひゃく</sup>点<sup>てん</sup>を逃<sup>のが</sup>しました。

4228: シュヴァイツァーさんは、お酒<sup>さけ</sup>を飲<sup>の</sup>むと人<sup>ひと</sup>に絡<sup>から</sup>むようになります。

4229: ツェッペリンは寡黙<sup>かもく</sup>ですが、チームを陰<sup>かげ</sup>から支<sup>ささ</sup>えるサポーターです。

4230: ギャラガさん、耐火<sup>たいかきんこ</sup>金庫<sup>てつび</sup>の鉄扉<sup>あつ</sup>は、どれ<sup>どれ</sup>く<sup>く</sup>らい<sup>らい</sup>の厚<sup>あつ</sup>さですか？

4231: ベルファストは、ポピュラー音<sup>おん</sup>楽<sup>がく</sup>を聞<sup>き</sup>けば、眠<sup>ねむ</sup>気<sup>け</sup>が紛<sup>まぎ</sup>れるっ<sup>まぎ</sup>ぽい<sup>ぽい</sup>です。

4232: スプレッドシートで、灰<sup>はい</sup>色<sup>いろ</sup>の部分<sup>ぶぶん</sup>が修<sup>しゅう</sup>正<sup>せい</sup>個<sup>かい</sup>所<sup>しょ</sup>になります。

4233: ぴょん助<sup>すけ</sup>は、標<sup>ひょう</sup>識<sup>しき</sup>に注<sup>ちゅう</sup>意<sup>いうい</sup>しながら運<sup>うん</sup>転<sup>てん</sup>します。

4234: チェルシーリナは、火<sup>ひ</sup>の盛<sup>さか</sup>る豪<sup>ごう</sup>邸<sup>てい</sup>へ<sup>と</sup>飛<sup>と</sup>び込<sup>こ</sup>んでいきました。

4235: グオックは軽<sup>かる</sup>やかなステッ<sup>しゅう</sup>プ<sup>い</sup>で、周<sup>しゅう</sup>囲<sup>うい</sup>を魅<sup>み</sup>了<sup>りょう</sup>しました。

4236: 眼鏡<sup>めがね</sup>をかけたデモ<sup>けい</sup>ン<sup>やく</sup>が、グヴェ<sup>も</sup>ルに契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>を持<sup>も</sup>ちかけました。

4237: ギューリッ<sup>きょうじゅ</sup>ク教<sup>げん</sup>授<sup>しぶつりがく</sup>は、原<sup>だい</sup>子<sup>がく</sup>物<sup>おし</sup>理<sup>し</sup>学<sup>く</sup>を大<sup>お</sup>学<sup>し</sup>で教<sup>お</sup>えていま<sup>し</sup>す。

4238: チャイコフスキーは、都<sup>つごう</sup>合<sup>わ</sup>が悪<sup>わる</sup>くなると<sup>ばじとうふう</sup>すぐ<sup>ばじとうふう</sup>に馬<sup>ば</sup>耳<sup>じ</sup>東<sup>とう</sup>風<sup>ふう</sup>にな<sup>な</sup>ります。

4239: キェルケゴールさん、社<sup>しゃ</sup>長<sup>ちょう</sup>直<sup>じ</sup>々<sup>きき</sup>のオ<sup>う</sup>フ<sup>う</sup>ァ<sup>う</sup>ー<sup>う</sup>を受<sup>う</sup>けま<sup>う</sup>せんか？

4240: 蒟<sup>こん</sup>蒻<sup>にゃくもんどう</sup>問<sup>く</sup>答<sup>かえ</sup>を繰<sup>い</sup>り返<sup>み</sup>して<sup>な</sup>も、意<sup>おも</sup>味<sup>い</sup>は無<sup>な</sup>いと思<sup>おも</sup>われ<sup>おも</sup>ます。

4241: 家<sup>か</sup>畜<sup>ちく</sup>の餌<sup>えさ</sup>に<sup>かん</sup>関<sup>かん</sup>する、フ<sup>ひろ</sup>ェ<sup>ひろ</sup>イ<sup>ひろ</sup>ク<sup>ひろ</sup>ニ<sup>ひろ</sup>ュ<sup>ひろ</sup>ース<sup>ひろ</sup>が<sup>ひろ</sup>広<sup>ひろ</sup>ま<sup>ひろ</sup>って<sup>ひろ</sup>いま<sup>ひろ</sup>す。

4242: 艶冶<sup>えんや</sup>なハルピュイアは、数々<sup>かずかず</sup>の男<sup>おとこ</sup>を誑<sup>たぶら</sup>かしています。

4243: テストのために、置換積<sup>ちかんせきぶん</sup>分<sup>もん</sup>の問<sup>たいりょう</sup>題<sup>と</sup>を大<sup>と</sup>量<sup>りょう</sup>に解<sup>と</sup>きました。

4244: ヴォルテールは、首<sup>しゅこう</sup>肯<sup>み</sup>しているように見<sup>い</sup>えて、居眠<sup>いねむ</sup>りしています。

4245: 七<sup>たなばた</sup>夕<sup>よる</sup>の夜<sup>あま</sup>の天<sup>がわぎんが</sup>の川<sup>み</sup>銀<sup>もの</sup>河<sup>みりょう</sup>は、見<sup>み</sup>る者<sup>もの</sup>すべてを魅<sup>みりょう</sup>了<sup>りょう</sup>します。

4246: テューバを聴<sup>き</sup>きながら飲<sup>の</sup>むコーヒーは、なかなか乙<sup>おつ</sup>ですね。

4247: 警<sup>けいこくおん</sup>告<sup>な</sup>音<sup>な</sup>を鳴<sup>なり</sup>らすと、どこからともなく榴<sup>りゅうだん</sup>弾<sup>と</sup>が飛<sup>と</sup>んできました。

4248: 僕<sup>ぼく</sup>が敬<sup>うやま</sup>う人<sup>ひと</sup>は、シャルドネを栽<sup>さいばい</sup>培<sup>ばい</sup>している伯<sup>お</sup>父<sup>じ</sup>さんです。

4249: 僧<sup>そうりょ</sup>侶<sup>りょ</sup>のビョルンストロムは、修<sup>しゅぎよう</sup>行<sup>ぎよう</sup>を經<sup>へ</sup>て悟<sup>さと</sup>りを開<sup>ひら</sup>きました。

4250: ヴィグルは、分<sup>ぶん</sup>刻<sup>きぎ</sup>みのスケジュールを毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>こなしています。

4251: アニエツロは、条<sup>じょう</sup>約<sup>やく</sup>を結<sup>むす</sup>ぶために、危<sup>きけん</sup>険<sup>けん</sup>な賭<sup>か</sup>けをしました。

4252: シェンヤンは宝<sup>たから</sup>を発<sup>はっけん</sup>見<sup>けん</sup>し、膨<sup>ぼう</sup>大<sup>だい</sup>な富<sup>とみ</sup>を得<sup>え</sup>ました。

4253: ドビュッシーは、オクタビオの罪<sup>つみ</sup>を水<sup>みず</sup>に流<sup>なが</sup>すことにしました。

4254: 私<sup>わたし</sup>の町<sup>まち</sup>には、文化財<sup>ぶんかざい</sup>に指定<sup>してい</sup>された太鼓<sup>たいこ</sup>があります。

4255: 友<sup>とも</sup>達<sup>だち</sup>の娘<sup>むすめ</sup>は、ツインテールの似<sup>に</sup>合<sup>あ</sup>う可<sup>かわい</sup>愛<sup>こ</sup>い子<sup>こ</sup>です。

4256: 調<sup>ちよう</sup>査<sup>さ</sup>の結果<sup>けっか</sup>、アムールヒョウは絶<sup>ぜつめつ</sup>滅<sup>めつ</sup>が危<sup>き</sup>惧<sup>ぐ</sup>される動<sup>どう</sup>物<sup>ぶつ</sup>でした。

4257: コステヨンキは、勝<sup>しょうり</sup>利<sup>きねん</sup>の記<sup>おかしらつ</sup>念<sup>たい</sup>に、尾<sup>たい</sup>頭<sup>た</sup>付<sup>た</sup>きの鯛<sup>たい</sup>を食<sup>た</sup>べました。

4258: 生徒会<sup>せいとかいちょう</sup>長<sup>お</sup>に推<sup>お</sup>す人<sup>ひと</sup>は、エスティガリビヤしかいません。

4259: ラングウは、対<sup>たい</sup>価<sup>か</sup>を得<sup>え</sup>るとクライアントを裏<sup>うら</sup>切<sup>ぎ</sup>りました。

4260: ウォッカを飲<sup>の</sup>んだアリストテレスは、巧<sup>たく</sup>み<sup>そ</sup>な措<sup>そ</sup>辞<sup>じ</sup>で皆<sup>みな</sup>を魅<sup>みりょう</sup>了<sup>りょう</sup>します。

4261: ウェールズの森<sup>しんりん</sup>林<sup>ほ</sup>保<sup>ご</sup>護<sup>ご</sup>のため、エヌピーオー法<sup>ほうじん</sup>人<sup>じん</sup>が設<sup>せつ</sup>立<sup>りつ</sup>されます。

4262: ネルテャは、芳<sup>かんば</sup>しい香<sup>かお</sup>りのステーキを食<sup>た</sup>べて、幸<sup>しあわ</sup>せそうでした。

4263: 我が社の漁網は、値段に対するクォリティが高く、おすすめです。

4264: 従妹はスーパーで、キャンディみたいにカラフルな餅を買いました。

4265: パプアニューギニアにある濁った湖には、雷魚がいます。

4266: ヴォロデョフスキーは、昭和の家電が大好きです。

4267: スケジュールが押しているため、フィナーレは省略されました。

4268: カミエニスキは、月が満ちると狼男になります。

4269: ピエールは規制を強めたため、国民の反感を買いました。

4270: トゥアンは血尿のため、急遽検査を受けました。

4271: 階段を下ると、クアリエリとばったり遭遇しました。

4272: 山麓の泉へ斧を投げ込むと、女神様が現れるらしいです。

4273: 芋とベーコンのフュージョンは、最高の組み合わせです。

4274: 汚らしい話を聞いたので、ペドロは気分が悪くなりました。

4275: イェーガーは、自分が助かるために、仲間を裏切りました。

4276: 虚偽やでまかせの主張をするのは、忌むべき行為です。

4277: ジョンドゥは、出張先で買った草履を、お土産にしました。

4278: テムゲは異国の地へ行くと、必ずデジャヴを感じるとのことです。

4279: 空港は、有名なアイドルのファンでごった返していました。

4280: ジョンはケネディを教唆して、詐欺の受け子をさせました。

4281: ウィリアムズとジェシーは、初詣のおみくじで大吉を引きました。

4282: ミュンヒェベルクの跳躍力は、目を見張るものがあります。

4283: デイルは、叙述トリックで有名な、サスペンス小説家です。

4284: 舞台俳優を目指して、グルンベルクは日夜稽古に励みます。

4285: バックギャモンにおいて、アトスイズに勝る者はいません。

4286: 軽快なコミュニケーションのコツは、天気の話をすることです。

4287: ミャンマー担当の職員が、今日限りで入れ換わりました。

4288: 命からがら生き残れたのは、僥倖としか言えませんね。

4289: グアダニーノの適切な指示により、犠牲者はでなかったです。

4290: 芝生が茂る季節には、鮮やかな蝶が見れるでしょう。

4291: ハーデャチは、徹夜するほど面白いゲームをたくさん持っています。

4292: 黄金色のチーズたっぷりのカルツォーネは、ほっぺたが落ちます。

4293: 布団を畳む最中で、キシィのサングラスを見つけました。

4294: 港町では、ジャンキーな漁師飯が好まれています。

4295: 水溜りに目を凝らすと、奇妙なヴェールが映りました。

4296: 美しい衣を着た天女が、浜辺に倒れていました。

4297: ダリルは、物を隠すことに関しては、百戦錬磨です。

4298: ヒュウゴさん、そんなものを流すと、排水溝が詰まると思います。

4299: アリギェリは、就職活動のために、自己分析をしています。

4300: チューリッヒ、その液体をかき混ぜると、濁るはずです。

4301: アルテュル様、捺印するには、印鑑と朱肉が必要ですよ。

4302: デェディッチは、チャーシュー入りの炒飯が、大好きだぜ。

4303: ラサルハグエの高い志は、チームの士気を高めてくれる。

4304: ヴァールの兄弟姉妹は、みんなユニークで気さくな人たちだ。

4305: チェロを弾くなら、チューニングとメンテナンスを<sup>わす</sup>忘れないでね。

4306: ヴェーダさ、鼓膜を傷めたなら、酷くなる<sup>ひど</sup>前に耳鼻科に行きなよ。

4307: チャルキエの、魔法を唱える速さは、この国でもトップクラスだ。

4308: 土曜はチートデイだから、今日のトレーニングは<sup>がんば</sup>頑張るぞ。

4309: クィーンと呼ばれる縞模様の野良猫は、目つきが<sup>め</sup>鋭く<sup>すんど</sup>獰猛だ。

4310: 龍之介は判決に<sup>こうそ</sup>納得しなかったため、控訴した。

4311: パシフィックリーグの人気投手が、ベースに<sup>つまず</sup>躓き<sup>てんとう</sup>転倒した。

4312: 年末の繁忙期に備えて、牛<sup>ぎゅう</sup>肉<sup>にく</sup>を<sup>か</sup>買いだめておかなきゃ。

4313: 歯の<sup>は</sup>矯正<sup>きょうせい</sup>をするなら、沼澤<sup>ぬまさわ</sup>歯科<sup>しか</sup>がおすすめだよ。

4314: 草が茫々に茂っているけど、チャップリンは何<sup>なに</sup>をしているんだ。

4315: 四限は中和<sup>ちゅうわ</sup>滴定<sup>ていてい</sup>の実験だから、<sup>はや</sup>早め<sup>いどう</sup>に移動しよう。

4316: 政<sup>まつりごと</sup>を<sup>おこな</sup>行<sup>さいじ</sup>う祭事<sup>きみょう</sup>は、奇<sup>じゅつ</sup>妙<sup>つか</sup>な術<sup>じゆつ</sup>を<sup>つか</sup>使<sup>つか</sup>うらしい。

4317: コテヨーノは、自家製<sup>じかせい</sup>ワイン<sup>つく</sup>を<sup>あつさくき</sup>作<sup>か</sup>るために、圧搾機<sup>あつさくき</sup>を買った。

4318: ダンベルで、後<sup>うし</sup>ろから<sup>おうだ</sup>殴打<sup>とお</sup>してくる<sup>ま</sup>通<sup>へん</sup>り魔<sup>へん</sup>が、この<sup>へん</sup>辺<sup>へん</sup>にいる。

4319: ジェットコースターの修繕<sup>しゅうぜん</sup>には、<sup>じかん</sup>まだまだ時間<sup>じかん</sup>がかかりそうだね。

4320: トゥアレグきゅん、鉄棒<sup>てつぼう</sup>は逆手<sup>さかて</sup>の方が<sup>ほう</sup>やりやすいと思<sup>おも</sup>うよ。

4321: チャイテヤは、僕<sup>ぼく</sup>が<sup>かよ</sup>通<sup>きょうしつ</sup>っている、フェンシング<sup>しはん</sup>教室<sup>しはん</sup>の師範<sup>しはん</sup>だ。

4322: 熟れすぎた柘榴<sup>う</sup>が道路<sup>ざくろ</sup>に<sup>どうろ</sup>散<sup>ち</sup>ると、秋<sup>あき</sup>の訪<sup>おとず</sup>れ<sup>かん</sup>を感じるな一。

4323: クェールは、軒灯<sup>けんとう</sup>の下<sup>した</sup>で、いつまでも<sup>かれし</sup>彼氏<sup>ま</sup>を<sup>つつ</sup>待ち続<sup>つつ</sup>けた。

4324: 乾瓢<sup>かんぴょう</sup>を<sup>つく</sup>作<sup>こうさく</sup>るために、耕作放棄地<sup>ほうさくほうきち</sup>を開墾<sup>かいこん</sup>した。

4325: グアイティオは、オーエスエスへ<sup>こうけん</sup>貢<sup>しゅみ</sup>献<sup>しゅみ</sup>するのが趣味だ。

4326: イェールの<sup>はなし</sup>話だと、この<sup>まち</sup>町には<sup>まきもの</sup>巻物<sup>ねむ</sup>が眠っているらしい。

4327: ドゥールーズは<sup>さまざま</sup>様々な<sup>だんたい</sup>団体に<sup>ぞく</sup>属し、<sup>きしょう</sup>徽章<sup>かず</sup>の数も<sup>おお</sup>多い。

4328: 毎日<sup>まいにち</sup>悪いけど、<sup>はいたつたの</sup>配達頼めるかな、<sup>フォルティトゥード</sup>フォルトゥイトゥード？

4329: 単<sup>たん</sup>刀<sup>とう</sup>直<sup>ちよく</sup>入<sup>い</sup>に<sup>つつ</sup>言うと、<sup>かく</sup>包み<sup>しんじつ</sup>隠さず<sup>はな</sup>真実を話してほしい。

4330: 淡<sup>たん</sup>黄<sup>こう</sup>色<sup>しよく</sup>の<sup>はちじよう</sup>八丈木<sup>きぶし</sup>五倍子<sup>さんがつ</sup>は、<sup>しがつごろ</sup>三月から<sup>さ</sup>四月頃<sup>さ</sup>に咲く。

4331: ヒューズ<sup>どの</sup>殿、<sup>ひつよう</sup>必要と<sup>われわれ</sup>あらば、<sup>あなた</sup>我々<sup>しえん</sup>はいつでも<sup>しえん</sup>貴方を支援しよう。

4332: ウィルス<sup>ぜんめつ</sup>を全滅させたため、<sup>かれ</sup>彼は<sup>ちようかいめんしよく</sup>懲戒免職<sup>しよく</sup>になった。

4333: ヴォンド<sup>きようかつ</sup>はチンピラに<sup>さいふ</sup>恐喝されて、<sup>なかみ</sup>財布の中身<sup>から</sup>が空になった。

4334: ヴラド<sup>ほ</sup>は、<sup>こうかい</sup>エヌエヌエヌ<sup>こうかい</sup>に<sup>こうかい</sup>欲しいものリスト<sup>こうかい</sup>を公開した。

4335: ウォーリー<sup>てぶくろ</sup>、<sup>しもや</sup>手袋を<sup>あと</sup>しないと、<sup>つら</sup>霜焼けして<sup>つら</sup>後が辛いよ。

4336: 寂れた<sup>さび</sup>城郭<sup>じようかく</sup>の<sup>あとち</sup>跡地は、<sup>しよぎようむじよう</sup>諸行無常<sup>かん</sup>を感じさせる。

4337: ビェリツァ<sup>しやうだん</sup>よ、その<sup>お</sup>商談<sup>お</sup>は降りることをおすすめするぜ。

4338: 行列<sup>ぎやうれつけい</sup>計算<sup>さん</sup>ばかりしていたので、<sup>のう</sup>脳が<sup>のう</sup>パンクしそうだ。

4339: ピャンチ<sup>あま</sup>は<sup>ず</sup>甘いもの<sup>とく</sup>好きだが、<sup>あんみつ</sup>特に<sup>め</sup>餡蜜<sup>め</sup>には<sup>め</sup>目がない。

4340: ズィール<sup>くん</sup>君、<sup>たんてき</sup>端的に<sup>たんてき</sup>いって、この<sup>そんぞく</sup>サークル<sup>きき</sup>は<sup>きき</sup>存続<sup>きき</sup>の危機<sup>きき</sup>にあるよ。

4341: 円<sup>まる</sup>い皿<sup>さら</sup>の上<sup>うえ</sup>には、<sup>た</sup>食べかけ<sup>た</sup>の<sup>た</sup>ゴルゴンゾーラ<sup>た</sup>パスタ<sup>た</sup>があった。

4342: トレファン<sup>あ</sup>は、<sup>むら</sup>明かりに<sup>むし</sup>群がる<sup>うと</sup>虫を、<sup>おも</sup>疎ましく<sup>おも</sup>思っている。

4343: ジャンヌ<sup>て</sup>はやり<sup>かぶ</sup>手の株<sup>せかい</sup>トレーダー<sup>き</sup>として、<sup>ゆうめい</sup>世界的に<sup>ゆうめい</sup>有名だ。

4344: 先祖<sup>せんぞ</sup>の<sup>れい</sup>霊を<sup>まつ</sup>祭る<sup>むら</sup>村の<sup>ぎやうじ</sup>行事は、<sup>ことし</sup>今年で<sup>きやうじゆうねんめ</sup>九十<sup>きやうじゆうねんめ</sup>年<sup>きやうじゆうねんめ</sup>目だ。

4345: シャンデリア<sup>お</sup>が<sup>お</sup>落ちる<sup>てんない</sup>かもしれないから、<sup>あば</sup>店内で<sup>あば</sup>暴れないでくれ。

4346: 派遣<sup>はけん</sup>先<sup>さき</sup>で<sup>さき</sup>によろ<sup>さき</sup>によろ<sup>さき</sup>した<sup>さき</sup>もの<sup>さき</sup>が見えたけど、<sup>さき</sup>なんだ<sup>さき</sup>った<sup>さき</sup>んだ<sup>さき</sup>らう。

4347: グィード、業<sup>ぎょう</sup>績<sup>せき</sup>が低<sup>てい</sup>迷<sup>めい</sup>してるけど何<sup>なに</sup>かあったのかい？

4348: デヨングは、亡<sup>な</sup>くなったゲマトリアに、哀<sup>あい</sup>悼<sup>とう</sup>の意<sup>い</sup>を 表<sup>ひょう</sup>した。

4349: スィーツの大部分<sup>だいぶぶん</sup>は、脂肪<sup>しぼう</sup>と糖<sup>とう</sup>なので、食<sup>た</sup>べすぎに注<sup>ちゅう</sup>意<sup>うい</sup>してね。

4350: ポルゾイは、見事<sup>みごと</sup>な手<sup>しゅ</sup>腕<sup>わん</sup>で、未<sup>み</sup>解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>事<sup>じ</sup>件<sup>けん</sup>を解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>した。

4351: この和風<sup>わふう</sup>パスタ、老<sup>ろう</sup>若<sup>にやく</sup>男<sup>なん</sup>女<sup>によ</sup>に愛<sup>あい</sup>されそうだね。

4352: リヤードフと親<sup>した</sup>しいゲバルドに、彼<sup>かれ</sup>の安<sup>あん</sup>否<sup>ひ</sup>確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>をお願<sup>ねが</sup>いした。

4353: 生<sup>う</sup>まれ育<sup>そだ</sup>った村<sup>むら</sup>の村<sup>そん</sup>長<sup>ちよう</sup>は、人<sup>じん</sup>徳<sup>とく</sup>のある人<sup>ひと</sup>だった。

4354: 笹<sup>ささ</sup>塚<sup>づか</sup>くん、リンクウが熱<sup>ねつ</sup>を冷<sup>さ</sup>ますまで、そばにいてやってくれない？

4355: ちょっとは人<sup>ひと</sup>のことを疑<sup>うたが</sup>う癖<sup>くせ</sup>をつけなよ、ビョフスキ。

4356: 尊<sup>そん</sup>敬<sup>けい</sup>する和<sup>おしょう</sup>尚<sup>しょう</sup>さんは、いつも白<sup>びやく</sup>檀<sup>だん</sup>の香<sup>か</sup>りがする。

4357: キャサリンは目<sup>め</sup>をキラキラさせながら、僕<sup>ぼく</sup>に質<sup>しつ</sup>問<sup>もん</sup>攻<sup>げ</sup>めをした。

4358: ジブラルタルは、反<sup>はん</sup>省<sup>せい</sup>の意<sup>い</sup>を込<sup>こ</sup>めて、頭<sup>あたま</sup>を丸<sup>まる</sup>めることにした。

4359: ショーテルは、ラムやブランデー等<sup>など</sup>の洋<sup>よう</sup>酒<sup>しゅ</sup>をよく飲<sup>の</sup>む。

4360: 購<sup>こう</sup>入<sup>にゅう</sup>履<sup>り</sup>歴<sup>れき</sup>を 遡<sup>さかのぼ</sup>ると、百<sup>ひゃ</sup>貨<sup>っか</sup>店<sup>てん</sup>で散<sup>さん</sup>財<sup>ざい</sup>していたようだ。

4361: 入<sup>にゅう</sup>院<sup>いん</sup>してきた患<sup>かん</sup>者<sup>じゃ</sup>は、手<sup>て</sup>の付<sup>つ</sup>けられない剽<sup>ひょう</sup>軽<sup>きん</sup>者<sup>もの</sup>だった。

4362: ヘラクレスくん、胃<sup>い</sup>に穴<sup>あな</sup>が開<sup>あ</sup>いたような顔<sup>かお</sup>をしてるけど、大<sup>だい</sup>丈<sup>じよう</sup>夫<sup>ぶ</sup>？

4363: 窓<sup>まど</sup>枠<sup>わく</sup>が 急<sup>きゅう</sup>に外<sup>はず</sup>れたので、思<sup>おも</sup>わずヒエツと悲<sup>ひめい</sup>鳴<sup>めい</sup>を上げた。

4364: 味<sup>あじ</sup>府<sup>ふ</sup>は、ピクオート族<sup>ぞく</sup>の研<sup>けん</sup>究<sup>きゅう</sup>を、長<sup>なが</sup>年<sup>ねん</sup>続<sup>つづ</sup>けている。

4365: ビューンが人<sup>ひと</sup>前<sup>まえ</sup>に 表<sup>あらわ</sup>れるとき、世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>に混<sup>こん</sup>沌<sup>とん</sup>が 齎<sup>もたら</sup>される。

4366: リエイダは、髪<sup>かみ</sup>を縮<sup>ちぢ</sup>らすのがオシャレだと思<sup>おも</sup>っている。

4367: ミュリオフュルルムを用<sup>もち</sup>いて、池<sup>いけ</sup>から脱<sup>だつ</sup>室<sup>ちつ</sup>を行<sup>おこな</sup>う予<sup>よ</sup>定<sup>てい</sup>だ。



4368: シィシュポスは、<sup>くに</sup> 国の <sup>だいひょう</sup> 代表 として <sup>げいひんかん</sup> 迎賓館 <sup>まね</sup> に招かれた。

4369: 今日、<sup>こんにち</sup> フルシュデヤンほど <sup>こうまいかったつ</sup> 高邁闊達 <sup>ひと</sup> な人は、なかなかいない。

4370: サピエンツァは、この<sup>ちいき</sup> 地域の <sup>ぼうえき</sup> 貿易 <sup>しき</sup> を仕切る <sup>しょうにん</sup> 商人 だ。

4371: 災害時に <sup>さいがいじ</sup> 備えて、<sup>そな</sup> ミュージアムには <sup>ゆうどうとう</sup> 誘導灯 <sup>せっち</sup> が設置されている。

4372: 早乙女は、くああと <sup>ねむ</sup> 眠 <sup>あくび</sup> そうに欠伸をしながらも、<sup>にんむ</sup> 任務 <sup>すいこう</sup> を遂行した。

4373: 二打席連 <sup>にだせきれんぞく</sup> 続本塁打に、<sup>おも</sup> 思わず <sup>とうしゅ</sup> 投手 <sup>さけ</sup> はぎえーと叫んだ。

4374: ボリシェヴィキの <sup>はんこう</sup> 犯行 <sup>わ</sup> により、我が家は <sup>や</sup> 灰燼 <sup>かいじん</sup> に帰した。 <sup>き</sup>

4375: 居士の <sup>こじ</sup> セグオンは <sup>はくしき</sup> 博識 <sup>ある</sup> で、<sup>ひゃっかじてん</sup> 歩く百科事典 <sup>ひと</sup> ともいえる人だ。

4376: 嘗て、ノヴィは <sup>かつ</sup> 学校 <sup>がっこう</sup> で <sup>はいせい</sup> 排擠 <sup>みじ</sup> され、<sup>おも</sup> 惨めな思いをした。

4377: 違法な <sup>いほう</sup> ギャンブル <sup>つみ</sup> をした罪 <sup>ちよめいじん</sup> で、著名人 <sup>たいほ</sup> が逮捕された。

4378: 冬至の <sup>とうじ</sup> 時期 <sup>じき</sup> のフィンランドは、<sup>きよくや</sup> 極夜 <sup>ひ</sup> のため <sup>のぼ</sup> 日が昇らない。

4379: 今日 <sup>きょうと</sup> 泊まるホテルでは、<sup>へや</sup> ロイヤルスイート <sup>よやく</sup> の部屋 <sup>を</sup> 予約している。

4380: タカアシガニの <sup>じゅうりょう</sup> 重量 <sup>はか</sup> を測るには、ちょっとした <sup>コツ</sup> コツがいる。

4381: カルヴァーリョは <sup>ぼく</sup> 僕に、くれぐれも <sup>う</sup> パーティ <sup>けいこく</sup> で浮かれる <sup>な</sup> と警告した。

4382: 留 <sup>りゅう</sup> 学 <sup>がくせい</sup> 生 <sup>じん</sup> のコロンビア人 <sup>にほんしゅ</sup> は、日本酒 <sup>だいす</sup> が大好きだ。

4383: あまりの <sup>あくしゅう</sup> 悪臭 <sup>ば</sup> で、その <sup>ぜんいん</sup> 場 <sup>かお</sup> にいた <sup>しか</sup> 全員 <sup>が</sup> 顔を <sup>嚙</sup> めた。

4384: デュルケームは、<sup>うそ</sup> ヘラヘラ <sup>かた</sup> しなが <sup>し</sup> ら嘘 <sup>を</sup> 語る <sup>ペテン師</sup> ペテン師 だ。

4385: 確 <sup>たし</sup> か、ティラミスには <sup>そ</sup> レモン <sup>を</sup> 添えるのもおいしいよ。

4386: 犯 <sup>はんこうげんば</sup> 行現場 <sup>さ</sup> には、冷めた <sup>ちゃ</sup> お茶 <sup>きょうき</sup> と凶器 <sup>のこ</sup> のナイフ <sup>が</sup> 残 <sup>に</sup> されていた。

4387: 夜 <sup>よる</sup> のウェールズは <sup>は</sup> 晴れて <sup>まんてん</sup> さえ <sup>ほしぞら</sup> いれば、満点 <sup>たの</sup> の星 <sup>が</sup> 空 <sup>が</sup> 楽しめる。

4388: そんなことをしたら、<sup>かな</sup> フェリペ <sup>おも</sup> が悲 <sup>を</sup> しむとは思 <sup>い</sup> いませんか？

4389: 殺<sup>さつ</sup>人<sup>じん</sup>を犯<sup>おか</sup>したアンツィオの判<sup>はん</sup>決<sup>けつ</sup>が、翻<sup>ひるがえ</sup>ることはない。

4390: カジミエシュは、茹<sup>ゆ</sup>でた毛蟹<sup>けがに</sup>を一<sup>いっ</sup>心<sup>しん</sup>不<sup>ふ</sup>乱<sup>らん</sup>に食<sup>た</sup>べている。

4391: 転<sup>てん</sup>校<sup>こう</sup>生<sup>せい</sup>のピエールは、常<sup>つね</sup>に殺<sup>さつ</sup>伐<sup>ばつ</sup>とした雰<sup>ふん</sup>囲<sup>いき</sup>気<sup>ま</sup>を纏<sup>まと</sup>っている。

4392: 焼<sup>や</sup>き蟹<sup>がに</sup>の香<sup>かう</sup>ばしい匂<sup>にお</sup>いで、思<sup>おも</sup>わず腹<sup>はら</sup>がぐうとなった。

4393: 青<sup>あお</sup>い渋<sup>しぶ</sup>柿<sup>がき</sup>を口<sup>くち</sup>にしたが、ま<sup>お</sup>ず<sup>も</sup>ず<sup>は</sup>思<sup>おも</sup>わず<sup>だ</sup>ペツと吐<sup>は</sup>き出<sup>だ</sup>した。

4394: ツェッペリンは居<sup>い</sup>眠<sup>ねむ</sup>り運<sup>うん</sup>転<sup>てん</sup>をして、崖<sup>がけ</sup>に衝<sup>しょう</sup>突<sup>とつ</sup>した。

4395: 大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>で、コ<sup>こ</sup>ンピ<sup>ころ</sup>ユ<sup>ぎ</sup>ー<sup>ぎ</sup>タ<sup>ぎ</sup>ー<sup>ぎ</sup>サイ<sup>ひ</sup>エン<sup>と</sup>スを志<sup>ふ</sup>す人<sup>ふ</sup>が増<sup>ふ</sup>えている。

4396: サレッツォは、パ<sup>ちゅう</sup>ト<sup>ふ</sup>ロ<sup>しん</sup>ール<sup>しゃ</sup>中<sup>は</sup>に不<sup>は</sup>審<sup>つ</sup>者<sup>けん</sup>を発<sup>は</sup>見<sup>けん</sup>した。

4397: ツアラトウストラは、群<sup>むら</sup>がる鬱<sup>う</sup>陶<sup>っとう</sup>しい蠅<sup>はえ</sup>を退<sup>たい</sup>治<sup>じ</sup>した。

4398: コスタニエヴィツァは、食<sup>た</sup>べるものすべ<sup>た</sup>てにソ<sup>た</sup>ースを足<sup>この</sup>すのが好<sup>た</sup>みだ。

4399: 噂<sup>うわさ</sup>だと、あ<sup>み</sup>の峰<sup>ね</sup>にはグ<sup>た</sup>アン<sup>つ</sup>ダ<sup>じん</sup>オ<sup>す</sup>の達<sup>す</sup>人<sup>じん</sup>が住<sup>す</sup>んでいる。

4400: ミ<sup>あ</sup>ヤ<sup>つ</sup>スコ<sup>あ</sup>フス<sup>つ</sup>キーから圧<sup>あ</sup>をかけ<sup>つ</sup>られて<sup>あ</sup>いる<sup>つ</sup>けど、パ<sup>あ</sup>ワ<sup>つ</sup>ハラ<sup>あ</sup>じゃ<sup>つ</sup>ないの？